高野山大学教授·図書館長 下

忠

意地があったのではないかと思われます。 名な『百人一首』において両院の和歌を撰入したのは、芸術を第一と考える定家に の和歌は结果的に政治的な妥協で定家は除きましたが、後日、定家が関与した有 歌集では、承久の乱(一二二一)で隠岐島や佐渡島に配流された後鳥羽院や順徳院 (一二三五)九番目の勅撰和歌集、つまり『新勅撰和歌集』を完成させました。その 教人藤原定家(一一六二—一二四一)は、 後城河天皇の下命により文暦元年

部立(分類)に正式にとりいれられたものであります。 平易にいえば、 さて、定家は弘法大師の和歌を卷十「釈教歌」の巻頭にすえました。 仏教関係の歌ということになりますが、平安時代後期から勃撰集の 釈教 教とは

土佐国室戸といふ所にて

しょかんだより

法性のむろとときけど我すめばうるの彼かぜよせぬ日ぞなき (五七 四)

ばかりで、 「たたぬ日ぞなき」として紹介されています。 と」に「室戸」と「垂漏と」を掛け、さらに「垂」と「有」を対照させるところにありま と、室戸は南の海辺だけに無為を望むことはできず、有為の彼風がつねに寄せてくる 対義語で、さまざまな因縁によって生じた現象の意。「いろは歌」にもある「有為の奥 境地)をみちびくいわば枕詞のような働きであると思います。「有為」とは「無為」の ょう。「法性」は真如(真実のすがた)の意で、垂漏(迷いを離れていること。煩悩のない ます。平安時代はじめの歌の特徴をよくあらわしている理知的な和歌といえるでし 私が住んでみると、ここにも世上の風彼は静かならずということを詠んだものと思われ た。室戸という所の名を無漏にとりなして、法性無漏と名づける所ではあるけれど、 山」や「有為転変」などと使います。ちなみに寂本の『四国遍礼霊場記』には、五句を 教意は、「ここ土佐の国室戸は、 静かならざるばかりであるよ」ということになると思います。 法性の意漏とと聞いているが、私がここに住んでみる 趣向は「むろ

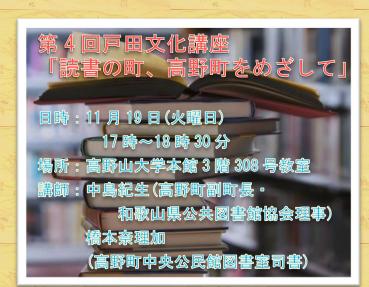
とても貴重な機会でした。

図書館長の下西

2013年 11月開館予定表							
日	月	火	水	木	金	土	
					1	2	
3	4	5	6	7	8	9	
10	11	12	13	14	15	16	
17	18	19	20	21	22	23	
24	25	26	27	28	29	30	

N La F	2013年 12月開館予定表						
A No	日	月	火	水	木	金	±
\	1	2	3	4	5	6	7
The second	8	9	10	11	12	13	14
Court I	15	16	17	18	19	20	21
J ad	22	23	24	25	26	27	28
A	29	30	31				

9:0	00-21:30	13:00-21:30
9:0	00-17:00	休館日
-	200	



「戦国武将の文事 不下長島子 (豊臣秀吉の甥)の和歌―」

第2回高野山大学図書館茶話会

十一月二日(土)図書館閲覧室におきまして

ました。 第二回高野山大学図書館茶話会が開催され

裏干家茶道部の方が点てたお茶を飲みながら 忠先生の講演を拝聴できる 後藤田さん

裏千家茶道部の方々

した。

丹生都此売神社本殿平成 のご造替について」

第3

髙

野

Щ

大学

X

書 館

戸

田文化

講

座

「天野

おきまして第3回戸田文化講座が開催されました。 十月十日(木)高野山大学3階308号室に

学外からの参加者を含め十数名のご参加がありま 講師は和歌山県文化財センター技師の結城啓司先生



それゆけ!としょかんだより 第77号